



"....."

"ちなみにここって
何処なのかな?"

"あと..."



"ミヨ、また
介抱してくれたんだね
ありがとう"

"まさかまた荷物にぶつかって
気絶しちゃうなんてね..."



...

先生



...まだ
状況が分かって
ないんですね



"何でこんなことに
なっているの...?!"



私の気持ちも
知らずに…



そんなのずっと見せられて
我慢できる
わけじゃないじゃないですか



先生が悪いんですよ

ずっと他の子と
ばっかり…



今は…
私のことだけ…

先生は、何も考えなくて
いいんです…

“ミ、ミヨ…待って！
本当に…！”



“！！”



もう逃がしません…



私のこと…
ちゃんと見て…



凄い…
先生の…全部…っ

あゝ

あゝ



あゝ♡



はあ

はあ



...ほら、声...
我慢しないで
ください

大丈夫...
誰も人は
来ませんよ

はぁっ

はぁっ



この時間帯...ここは
ちょうど巡回の死角に
なる場所なんです

最初から...
この時間、この場所で...
こうなることも
決めてたんです...

...先生が私を全然
見てくれないから



ずっと...
待って...
いたんですよ?

だから
こうなったのも
先生の責任...ですよ?



大人なんですから

責任、
取ってくださいね



“ミ、ミヨ！
これ以上は！”

先生ももう
いきそうですか？



駄目ですよ

